

第24回健康・医療戦略推進本部 議事概要

日 時：令和元年6月20日（木）16時35分～16時55分

場 所：首相官邸4階大会議室

出席者：健康・医療戦略推進本部長、副本部長及び本部員

○ 副本部長である平井健康・医療戦略担当大臣から、以下のとおり説明があった上で、「健康・医療戦略の実行状況と今後の取組方針2019」「医療分野研究開発推進計画の実行状況と今後の取組方針2019」「2019年度第1回医療分野の研究開発関連の調整費の実行計画」及び「2020年度医療分野の研究開発関連予算等の資源配分方針」について、案のとおり本部決定した。

・2014年7月に決定した健康・医療戦略及び医療分野研究開発推進計画については、毎年、前年度までの実行状況を確認するとともに、以後の取組方針を本部決定しております。戦略については、「研究開発」と「新産業創出・国際展開」、そして「これらの基盤となるデータ利活用基盤の構築」といった柱に沿って記載をしております。また計画については、AMEDの機能強化と9つの統合プロジェクト毎に、主な成果と本年度の取組方針をとりまとめております。

・「2019年度第1回医療分野の研究開発関連の調整費の実行計画」は、毎年2回、研究の一層の加速等のため追加的に配分することとしている調整費について、本年度第1回の配分として総額80.2億円を決定したいというものです。

・「2020年度医療分野の研究開発関連予算等の資源配分方針」は、現行の戦略・計画が本年度末に期限を迎えるため、次期の戦略を見据えて策定する必要があります。このため、これまで推進本部傘下に設置した専門調査会や参与会合において有識者の皆様にご議論をいただき、次期の戦略・計画の方向性としてご了解いただいた内容を踏まえて作成しております。

○ 引き続き、副本部長である平井健康・医療戦略担当大臣から、以下のとおり説明があった上で、「アジア医薬品・医療機器規制調和グランドデザイン」「アフリカ健康構想に向けた基本方針」について、案のとおり本部決定した。

・「アジア医薬品・医療機器規制調和グランドデザイン」では、昨年7月にこの本部で改定した「アジア健康構想に向けた基本方針」の下、アジアにおける自立的な産業育成を図りつつ、アジア域内の規制調和にも取り組むことで、アジアが一体となって持続的で自立的なヘルスケアを確立することを目指します。

・「アフリカ健康構想に向けた基本方針」では、アジア健康構想の経験を踏まえ、アフリカに対しても健康構想を策定し、TICAD7において提唱いたします。具体的には、公的セクターによる支援と、自律的な民間の産業活動を車の両輪として取り組み、アフリ

力におけるすそ野の広い富士山型ヘルスケアの実現を目指します。また、政府間の覚書作成による環境整備や、アフリカビジネス協議会との連携を通じて、民間事業の振興に取り組めます。

○ 次に、以下の2名から、「健康・医療戦略」に係る具体的な取組事例について発表がなされた。

・「認知症 特にアルツハイマー病の早期発見・発症予防・治療のために」

田中 耕一 島津製作所 質量分析研究所所長

・「衣料から医療への挑戦～北陸繊維産地の再起を目指して～『下町ロケット2 “リアル” ガウディ計画』」

高木 義秀 福井経編興業 代表取締役

○ 最後に、本部長である安倍内閣総理大臣から以下のとおり挨拶があった。

・健康な生活と長寿を享受できる「健康長寿社会」実現のため、安倍内閣は、医療分野の研究開発と新産業の創出・国際展開を柱とする健康・医療戦略を策定し、この5年間、全力で取り組んできました。

・これまでの取組を通じて、画期的な研究成果が次々と生み出されています。本日は田中先生より、従来の常識に捉われない発想で認知症の早期診断を可能とする画期的な技術につながった事例や、高木社長より、高度なものづくり技術を医療分野へと応用し、これまでにない製品を開発した事例を御紹介いただきました。いずれも産学官連携の支援を得ながら、世界初のイノベーションを打ち立てた、すばらしい成果です。

・また、我が国の優れたヘルスケアサービスを国際展開していくため、これまでのアジアに加え、本日、アフリカ健康構想を決定しました。本年8月に横浜で開催するT I C A D 7（第7回アフリカ開発会議）においてもしっかりと発信してまいります。

・人生100年時代を見据え、健康長寿社会の実現はますます重要な課題となっています。次の5年を見据えた新たな健康・医療戦略の策定に向け、関係閣僚においては、平井大臣を中心に検討を進めてください。

以上